


■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。  
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

\*:著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC:著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

:パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし:上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 学術俯瞰講義  
Copyright 2015, 五百旗頭 薫

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series  
Copyright 2015, Kaoru Iokibe

二つの想像力  
原子力発電所の是非をめぐって

2015年11月27日

五百旗頭 薫

○前回（無利益と不合理の隙間を：鳥羽溪谷の希望 11月24日）のコメントへの応答



\*  
福井県遠敷郡上中町『全町公園化構想 - 上中町アメニティ・タウン計画報告書』（昭和60年3月）23頁より。

## ○嶺南（若狭+敦賀市）原子力発電所をめぐる列伝

### I-1. 橋本昭三（敦賀市白木区）

### I-2. 永井学（おおい町）

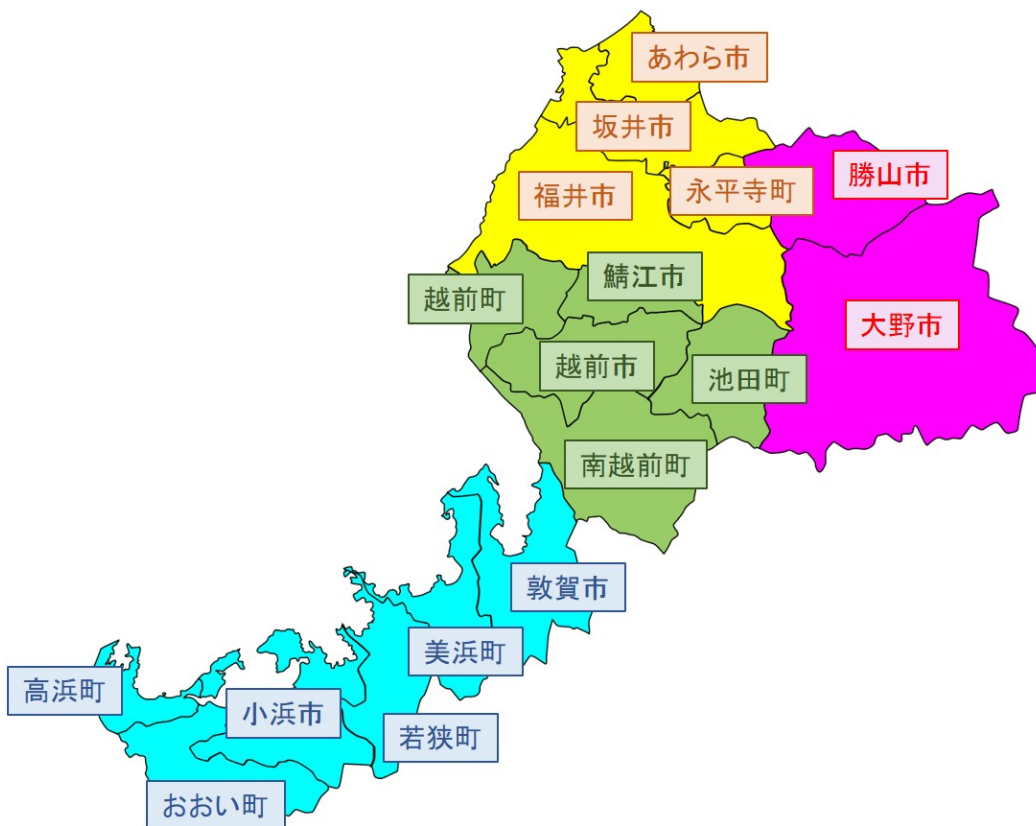
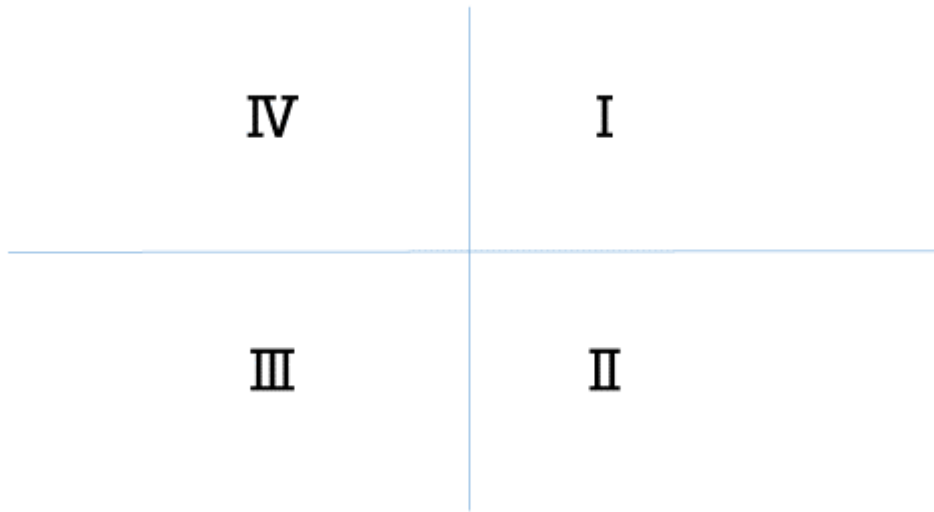
## II. 水上勉（おおい町）（1919～2004年）

『(改訂版) はなれ瞽女おりん』

岩淵平太郎さまというお名前で、(中略)「瞽女さんや、おみやァ、手びきなして、ようもこげな山奥の村々を歩いてなさるな」といいなさります。「はい、おらめくらゆえ、世の中は闇でござります。三つの春から闇だけをみつめてきたのでござります。目あきさまは闇をおそれなさるが、めくらには、おそれにはござりませぬ。闇が生きる世界でござりまする故、川底も谷底もおそれおっては生きられませぬ。どこもかも道にござります。これこのとおり、おらは、この竹杖一本で歩けます」といいますと、平太郎さまは、感心したように溜息をつかれて、「ちょっくら、おらに負われてみや。おら、一つおみやァを背負って走ってみら」とおどけられ、おらの前にしゃがみなさって、「さ、遠慮しねえで負われろや」いいなさります。おらは、急にあまえる気もちになり、いわれるままに負われました。大ぢい肩でござりました。太い首でござりました。(中略) おらがはなれ瞽女に落ちましてから、何年たちましたろう。人さまに背負われて、春の道を歩いたのは、この時がはじめてでござりました。いいや、うまれてこの方、おらは人さまのぬくい背中にせ負われたことがござりませなんだ。あの五十子平から、松口へもどり、十日町へ下ります川ぞい道の、春のけしきはさぞかし、桜も、桃も咲いておりましたろう。また見たこともない花のひとひらが、おらの頬ぺた撫でる風にのってくるようなあんばいでござりました。その夜は十日町の、伊佐木屋という木賃宿にとまりました。(水上勉『はなれ瞽女おりん』(改訂版) 若州赤土舎、63-64頁より)

そこを通るはおりんでござる  
しょうじるてんの苦海の人が  
ろく字のあみにかがられて  
みだの浄土にひきよせられる  
おりんご恩をよろこばしゃんせ  
ご恩うれしや南無阿弥陀仏  
(同上、112頁より)

## III. 中嶋哲演（小浜市・明通寺住職）



<http://www.freemap.jp/item/fukui/fukui.html> を元に作成